

令和5年度

デジタル技術を活用した全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」

～長野県東御市の取組～

---

# 長野県東御市の取組概要

---

## 長野県東御市

### ■ 基本データ

- ・人口：29,605人（2022年4月1日時点）
- ・世帯数：約12,319世帯
- ・高齢化率：32.5%  
（2030年には35%に達する見込み）
- ・事業所数：商業 約230事業所（卸売、小売業）  
工業 約90事業所  
農家数 約2,300戸

### ■ 地域の特徴

#### 【概要】

- 東御市は、面積の半分以上が山林、4分の1が田畑と豊かな自然が残されており、雨が少なく、昼夜の寒暖差が大きい気候風土であることから、**ぶどうやくるみなどの農畜産物**を中心に多くの名産品、特産品が生まれています。
- 平成27年には千曲川ワインバレー特区（東地区）に認定され、現在は13カ所の個性豊かなワイナリーが揃う**県内でも有数のワイナリーエリア**となっています。



#### 【ほどよく、田舎】

- 東御市は長野県の東部に位置し、**東京から車で約2時間、新幹線で約1時間30分と都心部からのアクセスも良好**で、「ほどよく、田舎。とうみ」を市の地域ブランドメッセージと掲げています。



#### 【標高差が大きいまち】

- 市の北部にかかる上信越高原国立公園の湯の丸高原は、レンゲツツジの大群落、コマクサ、アヤメ、マツムシソウなど、多種類に及ぶ高山植物の宝庫で、フラワートレッキングに最適の花高原として親しまれています。
- また、標高1,750mのエリアには、**日本唯一の高地トレーニング用屋内プール（GMOアスリーツパーク湯の丸屋内プール）をはじめとする高地トレーニング施設が整備**され、大勢のアスリート達が日々トレーニングに励む高地トレーニングの聖地にもなっているなど、**1,000m以上の標高差を活用したまちづくりを進めています。**



# 長野県東御市の取組成果

## 市の重点課題

- 地域におけるつながりの希薄化による**高齢者の孤立化が深刻**。買い物、掃除等、日々の困りごとを住民同士で助け合える体制がない。
- 地域活動への参加者数が減少し、**地区の役員のなり手・担い手が不足**。

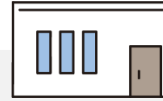
## 課題への対応

小学校区単位で設置されているコミュニティセンター（公民館）を誰もが気楽に立ち寄ることができる場所にするため、地域拠点として機能強化する。

- **ドラッグストアとの協定に基づく移動販売の実施により、買い物に困っている住民を支援するとともに、買い物を通じて高齢者の見守りや孤独感・孤立感の軽減につなげる。**
- 移動販売車が各地域の拠点等に停まるタイミングに合わせて、**従来から実施していたフレイル教室等を開催することで、更に交流を拡大させ、共助を通じた地域活性化の基盤を築く。**

## 【取組のイメージ】

### 各コミュニティセンター等



### 今回の取組

#### 移動販売による買い物支援



- 移動販売の様子  
多様な方が買い物に訪れる。  
高齢者の方は店員がサポート。



- 常設モニター搭載  
オンラインカタログによる商品選定、薬剤師への健康相談、地域のお知らせ掲載

連携



### 地域のコミュニティ活動



健康予防の取組  
・フレイル予防教室  
・認知症カフェ



デジタルデバイス  
解消の取組  
・スマホ教室

その他、多様な  
活動を企画予定

地域のコミュニティ活動を通じた健康増進などに加え、共助の仕組みを構築。

買い物等を通じた交流・外出の機会の創出

移動販売とコミュニティ活動を連携させ、**更なる交流機会創出により、高齢者の見守り**を行うとともに、**住民同士の共助**につなげる。

拠点を中心とした  
にぎわいの創出

# 取組の検討シート（地域課題の整理）

---

※「生涯活躍のまち」の5つの観点について、認識している地域課題を列挙(箇条書き)。括弧書きは優先順位(◎、○、△、×)

## 交流・居場所

- ・ **地域活動が減少し、交流の機会が減少している(◎)**
- ・ 身近な場所に高齢者が集まれる居場所が無い(○)
- ・ 頼みごとができる人がいない(◎)
- ・ 世代間のつながりが無い(○)
- ・ 家以外の居場所が無い(○)
- ・ **高齢者の孤立(◎)**
- ・ 若い人たちが集まる場が少なく交流が少ない(○)
- ・ **コミュニティの衰退(◎)**
- ・ 引きこもり対策として、人と人のつながりを作るボランティア人材の育成・確保が必要(○)

## 健康

- ・ 独居老人の保護、ケア(○)
- ・ 医療機関への移動が大変(○)
- ・ 親の介護が必要になった際に対応できない(△)
- ・ 健康ではなくなったときに買い物などができない(○)
- ・ 外出の機会が減り、体がなまっている(△)
- ・ ホームヘルパー事業所の規模が縮小している(○)

## 活躍・キャリア

- ・ **高齢化が進み地域の担い手が不足している(◎)**
- ・ 高齢化により荒廃地が増えている(○)
- ・ 保育所以外に頼れる所がなく、子育て中に働くことが難しい(○)
- ・ 地域活動を行っている団体の減少(○)
- ・ ひきこもりや精神障がい者などが社会に復帰できない(○)
- ・ 年老いて生きがいを見つけられるか(○)
- ・ 免許返納後の移動手段が無い(○)
- ・ 介護と仕事の両立が難しい(△)
- ・ 役員に女性が少ない(○)
- ・ 住民が主体となった地域づくり(○)
- ・ 市民活動団体への補助金の減少(△)
- ・ 仕事の数はあるが、種類の幅がなく選択肢が少ない(△)

## 人の流れ

- ・ 高校卒業後に都会に流出してしまう(○)
- ・ 大学進学などで都会に行った人が帰って来ない(○)
- ・ 人口の流出による地域の空洞化(○)
- ・ 子どもの数が減って、賑わいがなくなっている(○)

## 住まい

- ・ 高齢者入居施設が高額(△)
- ・ 所有者が不明な空き家だけでなく空き地等の管理は誰が行うのか(○)
- ・ 放棄された空き家問題(○)
- ・ 老人ホームに入れない(△)
- ・ 持ち家の処分時期・方法(△)

## その他

- ・ 車がない場合、仕事や買い物が大変(○)
- ・ 物価高騰により生活が圧迫されている(○)
- ・ 耕作放棄地の増加(○)
- ・ 高齢者の生活介助(買い物等)(○)
- ・ 未婚の人が増えている(△)
- ・ IT化、DXについていけない(○)
- ・ デマンド交通の使い方を知らない高齢者が多い(△)
- ・ AI・ICTの知識・技術を持った人材を育成する必要がある(○)

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

地域課題：  
【交流・居場所】コミュニティの衰退

概要	<p>少子高齢化や核家族化の進展により、地域におけるつながりの希薄化が進んでいる。さらに、コロナ禍の影響で地域の交流機会が減少したことで、その動きは加速している。</p> <p><b>その結果、子育てや介護の負担増加や高齢者の孤立など様々な問題が発生している。</b></p>
対象 <small>※課題解決による受益者</small>	<p>頼れる人がいない人、地域とのつながりを作りたい人、ちょっとした仕事をしたい人</p>
庁内外関係者	<p>地域づくり協議会 各区 社会福祉協議会</p>

これまでの施策

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校区単位での地域づくり</li> <li>・各小学校区における地域ビジョンの策定</li> <li>・支え合い体制づくりの促進</li> <li>・各区単位のフレイル予防教室等の開催</li> </ul>
効果 (解決したこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の地域づくり協議会による事業の実施</li> <li>・フレイル予防教室等の開催による「通いの場」の創出</li> </ul>
課題 ・未解決の課題 ・新たな課題 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>共助の意識を持つ人の減少</b></li> <li>・ <b>地域の人をつなぐマッチングシステムがない</b></li> </ul>

地域課題：  
【活躍・しごと】高齢者の孤立

概要	<p>未婚率の増加や核家族化の進展により、単身世帯が増加している。地域のつながりの希薄化も進んでおり、社会とのつながりが持てない高齢者の孤立化が特に問題となっている。</p> <p>また、急速に進む社会のデジタル化に取り残され、デジタル活用の恩恵を享受できない高齢者も存在する。</p>
対象 <small>※課題解決による受益者</small>	<p>高齢者、地域団体</p>
庁内外関係者	<p>社会福祉協議会、民生委員</p>

これまでの施策

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支え合い体制づくりの促進</li> <li>・シルバー人材センターや高齢者クラブなどの活動支援</li> </ul>
効果 (解決したこと)	<p>高齢者クラブ等での活動を通じた生きがいづくりや健康の増進</p>
課題 ・未解決の課題 ・新たな課題 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>単身世帯の増加を背景とした孤独・孤立</b></li> <li>・ デジタルデバインド</li> </ul>

※前頁で列挙した地域課題のうち、特に優先度が高い課題の詳細を記載

地域課題：  
【活躍・しごと】地域の担い手の不足

概要	<p><b>高齢化や人口減少の影響により、地域の担い手が不足している。</b>                  地域活動への参加者数が減少し、地区の役員のなり手を見つけることが困難になってきている。農業においては、担い手不足により耕作放棄地・荒廃農地が増加している。</p>
対象 <small>※課題解決による受益者</small>	地域全体
庁内外関係者	地域づくり協議会 各区 農業委員会

これまでの施策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者支援</li> <li>・関係人口の創出</li> </ul>
効果 (解決したこと)	新規就農数の増加
課題 ・未解決の課題 ・新たな課題 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依然として担い手が不足している。</li> <li>・定年帰農者への支援の推進</li> </ul>



中長期的に実現したい状態

- 共助による地域活性化、コミュニティの再生
- 高齢者や障がい者等が生きがいを持って社会参画できる地域
- 農業の担い手不足の解消
- 身寄りのない高齢者等が安心して暮らすことができる社会
- 誰もがデジタル活用の恩恵を受けられる社会



そのために直近2～3年で取組みたいこと★

- 地域拠点の機能強化（人材配置・組織化）
- 住民の支え合い意識の醸成
- 買い物、掃除、ゴミ出し、移動など日々の困りごとを住民同士が助け合えるシステムの構築
- 高齢者・障がい者の生きがい・居場所づくりと担い手不足が進む農業分野の活性化
- エンディングノート作成・日常の金銭管理・葬儀・相続・空き家などに関する相談や手続きを一括して行うことができる「相談窓口」の開設
- デジタル技術に触れる機会の増加による情報格差の解消に向けた取組

★を具体化するにあたり不足している情報・要確認事項

- ・実際にどのくらい需要があるのか
- ・DXの活用が可能か
- ・DXを活用する場合、高齢者や障がい者のスマホ・タブレット等の所有率はどのくらいか

# 目指す将来像の整理

## 目指す将来像

「人と自然が織りなすしあわせ交流都市 とうみ」

自然の恵み、農山村の潤いに育まれてきた個性豊かな文化と美しい郷土に愛着と誇りを持ち、心あたたまふれあい、いきいきとした活動によって人と人を結び、誰もが笑顔で暮らし続けられる幸せが実感できるまちを目指します。

## 将来像と地域課題を踏まえて、今後実施したい事業

### 【交流・居場所】

- ・ 拠点機能の強化によるコミュニティの再生
- ・ 共助の取組の促進による地域活性化

### 【活躍・しごと】

- ・ 高齢者が生きがいを持って社会参画できる地域の実現
- ・ 農業の担い手不足の解消

### 【暮らし】

- ・ 身寄りのない高齢者等が安心して暮らすことができるように相談窓口の開設を検討
- ・ 誰もがデジタル活用の恩恵を受けられる社会を実現するために情報格差を解消

## うち、デジタル技術を活用して取り組みたい事業

- ・ 共助の取組の促進において、コミュニケーションツール・マッチングシステムの活用を検討中
- ・ 情報格差の解消に向けて、デジタルに親しむ取組を検討中

# 目指す将来像の整理

## 目指す将来像【全体像】

### 【交流・居場所】

- ・ 地域拠点の人材配置の見直しや組織化を行うことにより、拠点機能を強化する。  
住民が相談などに立ち寄れる場所にするこことで、人々が集まり、交流する機会を生み出す。
- ・ 買い物、掃除、ゴミ出し、移動など日々の困りごとを住民同士が助け合えるシステムを構築し、共助による地域の活性化を目指す。  
また、住民の支え合い意識を醸成することで、支援者の母数を増加させる。

### 【活躍・しごと】

- ・ 担い手不足が進む中。持続可能な農業を目指すため、新規就農者受け入れ事業に加え、定年帰農者への支援の充実を図る。
- ・ 高齢者・障がい者の生きがい・活躍の場づくりとして、農福連携に取り組む。

### 【暮らし】

- ・ エンディングノート作成・日常の金銭管理・葬儀・相続・空き家などに関する相談や手続きを一括して行うことができる「相談窓口」を開設することにより、相談者の悩みを解消し、人生の充実ができるように支援を行う。
- ・ 情報格差の解消に向けてデジタル技術に触れる機会の創出等を行い、誰もがデジタル化の恩恵を受けられる地域を目指す。

## 取組の検討シート（方向性の検討・具体化）

---

# 事業具体化に向けた施策のブレインストーミング

- 未解決の課題 / 新たな課題
- ・ 共助の意識を持つ人の減少
  - ・ 地域の人をつなぐマッチングシステムがない
  - ・ 単身世帯の増加を背景とした孤独・孤立
  - ・ デジタルデバイド

No.	施策の対象者	実現したい状態	施策イメージ	施策タイプ	備考
例	市外の企業	地域課題解決のパートナーとして継続的に関わりを持ってもらう	地域課題を素材にした対応策の検討と、現地視察や地域のステークホルダーとの対話をパッケージにして人材研修プランとして提供	ワークショップ	
1	各地区公民館	コミュニティの再生 共助による地域活性化	小学校区単位で設置されているコミュニティセンター（公民館）を誰もが気楽に立ち寄ることができる場所にするため、地域拠点の機能強化（人材配置・組織化）する。		
2	買い物難民	コミュニティの再生 共助による地域活性化	ドラッグストアとの協定に基づく移動販売を実施し、買い物に困っている住民を支援するとともに、人との交流機会を増加させることで、孤独感・孤立感を軽減させる。		
3	地域拠点利用者	コミュニティの再生 共助による地域活性化	移動販売車が各地域の拠点等に停まるタイミングに合わせて、フレイル教室等を開催することで、交流を拡大し、共助を通じた地域活性化の基盤を築く。なお、交流拡大の取組については、生活支援コーディネーター、地域づくり支援員、地域おこし協力隊等と連携して進める。		
3	デジタル化の恩恵を受けることができない人（主に高齢者）	誰もがデジタル活用の恩恵を受けられる社会	東御市アプリの活用を促進することで、利便性を向上させるとともに、アプリの活用についてサポートすることで、デジタルデバイドを解消する。		
5	市民	生涯活躍のまちづくりに関するビジョンの共有	地域ビジョンの改定に合わせて、誰もが居場所と役割を持って活躍できる地域を目指すことを盛り込む。		

# 事業具体化に向けたデジタル技術調査

No.	見つけたデジタル技術／サービス	企業／団体名 ※	技術／サービス概要（URL）	市での活用局面
1	地域アプリ	***	地域アプリを活用し、下記のサービスを提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市からの情報発信</li> <li>・デマンドタクシーの予約</li> <li>・市民間のビデオ通話</li> <li>・ゲーム 等</li> </ul>	地域アプリに様々な機能を統合することで、市民の利便性向上とデジタルデバイス対策を同時に行う。
2	薬剤師等とのオンライン相談		移動販売車に設置されたモニターにより、薬の相談等を遠隔で行うことができる。	移動販売
3	バスのリアルタイム追跡	青森県八戸市	スマートフォン、パソコンで市営バスの運行状況がリアルタイムでわかる	移動販売車の追跡
4	商品のオンライン注文			移動販売において、移動販売車に載せる商品のリクエスト
5	高齢者向けヘルスケアアプリ	***	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動等を行うことにより、健康ポイントが付与される</li> <li>・ポイントは市内店舗等で利用できる。</li> </ul>	フレイル対策事業での活用
6	みんチャレ	***株式会社	ダイエット・運動・勉強など同じ目標を持った匿名の5人でチームを作りチャットに報告して励まし合うことで楽しく習慣化に取り組めるアプリ	フレイル対策事業での活用
7	体育施設のオンライン予約	長野県東御市	体育施設の予約に関してオンラインで空き状況の確認や予約が行える。	公民館の予約

※ホームページでの公表にあたり、「企業/団体名」は一部加工しています。

# マッチングイベントの振り返り

## マッチングイベント前の整理事項

イベントで  
収集したい情報

- ・ 共助の取組を促進するための住民同士のマッチングシステム・コミュニケーションツールに関する情報
- ・ デジタルデバイドの解消に向けた取組のアイデア

## マッチングイベント後の整理事項

事業設計に関する  
事項  
(サービス利用者  
の設定など)

- ・ フレイル予防等でアプリを活用する場合は、デジタルサポートを手厚くすることでデジタルデバイス対策も行うことができる。
- ・ アプリを導入する際は、タブレット・スマホ所持率の低い高齢者に対して貸与を行うと効果的。
- ・ 地域ポイントの付与が健康アプリ活用のインセンティブとして効果的。

民間事業者等との  
議論で得られた示唆

使えるようなデジタル  
技術・留意点

- ・ 地域アプリの有効な活用方法（市からの情報発信やデマンド交通など）
- ・ アプリを活用して課題解決を図る取組が多かったが、その都度アプリを導入していくと煩雑になるため、一つのアプリに様々な機能を統合することが有効と感じた。

その他

- ・ **デジタルの力を活用してデータ収集を行うことで、エビデンスベースの事業展開が可能になる。**

マッチングイベントを  
通じて見えてきた  
次に取り組むべき事項

- ・ 住民同士のマッチングシステムに関する情報収集
- ・ 東御市アプリに実装する機能について検討
- ・ **コミュニティづくりのきっかけをどのように作るか検討**
- ・ タブレット・スマホの貸与について検討

# デジタル技術の特定と生涯活躍のまちにおける位置づけ

プレスト No.	施策イメージ ▶プレストシートの記事内容再掲か、更新したものを記載	① 「生涯活躍のまち」としての 妥当性・重要性 ▶誰もが居場所と役割を持つ地域コミュニティづくりに資するか ▶コミュニティを通じて課題解決や相乗効果の発揮につながるか	② 連携施策 (記載できるだけ記載)	③ 取組の緊急性・スパン (短期・中期・長期)	④ 取組予定 時期	⑤ 優先 順位
1	・小学校区単位で設置されているコミュニティセンター（公民館）を誰もが気楽に立ち寄ることができる場所にするため、地域拠点の機能強化（人材配置・組織化）する。	公民館が気軽に立ち寄れる場所となることで、地域住民間の交流が促進され、コミュニティの強化が期待できる。また、地域課題やニーズに対応するための議論の場としての活用も考えられる。	小学校区単位の地域づくり	中期	調整中	3
2	・ <b>ドラッグストアとの協定に基づく移動販売を実施</b> し、買い物に困っている住民を支援するとともに、人との交流機会を増加させることで、孤独感・孤立感を軽減をさせる。	<b>買い物に困っている住民に直接サービスを提供</b> し、日常生活における便利さと安心感を提供できる。また、 <b>移動販売は人々の交流の場として機能し、孤独感や孤立感を軽減する社会的なつながりを促進</b> する。	フレイル対策	中期	令和6年4月	1
3	・ <b>移動販売車が各地域の拠点等に停まるタイミングに合わせて、フレイル教室等を開催</b> することで、交流を拡大し、共助を通じた地域活性化の基盤を築く。 ・なお、交流拡大の取組については、生活支援コーディネーター、地域づくり支援員、地域おこし協力隊等と連携して進める。	住民が集まる機会を提供することで地域のつながりが強化され、 <b>住民が支え合うコミュニティが形成</b> される。	移動販売	中期	令和6年7月	2
4	・東御市アプリの活用を促進することで、利便性を向上させるとともに、アプリの活用についてサポートすることで、デジタルデバイドを解消する。	デジタルリテラシーの向上により、全ての世代がデジタル技術を活用できるようになることで、社会的包摂を促進できる。	スマホアプリ導入 スマホ教室	中期	調整中	4
5	地域ビジョンの改定に合わせて、 <b>誰もが居場所と役割を持って活躍できる地域を目指すことを盛り込む。</b>	地域づくりの将来像や方向性を <b>示した地域ビジョンに生涯活躍のまちについて記載</b> することで、住民間で認識を共有できる。	小学校区単位の地域づくり	短期	調整中	5



# デジタル技術の特定と将来像との整合性確認

## (生涯活躍の) まちの将来像 (ビジョン)

- 「人と自然が織りなすしあわせ交流都市 とうみ」  
自然の恵み、農山村の潤いに育まれてきた個性豊かな文化と美しい郷土に愛着と誇りを持ち、心あたたまふれあい、いきいきとした活動によって人と人を結び、誰もが笑顔で暮らし続けられる幸せが実感できるまちを目指します。

### 01 施策

優先順位

1

- ドラッグストアとの協定に基づく移動販売を実施し、**買い物に困っている住民を支援するとともに、人との交流機会を増加させることで、孤独感・孤立感を軽減**させる。

### 01 実現したい状態 (将来像)

- 買い物難民の解消を図るとともに、地域住民間の交流を促進することで、**孤独感・孤立感を解消**する。

### 01 デジタル技術の種類など具体的な取組手段

- 移動販売車に設置されたモニターにより、**薬や健康についての相談等を遠隔で行う**ことができる。  
また、**モニターにはオンラインカタログを表示**し、その場で次回巡回時に持ってきて欲しい商品を注文できる。

### 02 施策

優先順位

2

- 移動販売車が各地域の拠点等に停まるタイミングに合わせて、フレイル教室等を開催することで、交流を拡大し、共助を通じた地域活性化の基盤を築く。なお、交流拡大の取組については、生活支援コーディネーター、地域づくり支援員、地域おこし協力隊等と連携して進める。

### 02 実現したい状態 (将来像)

- 地域住民の交流を拡大することにより地域コミュニティを強化し、共助による取組(見守り等)につなげる。

### 02 デジタル技術の種類など具体的な取組手段

- SNSや住民アプリを活用した広報を行い、広く住民に周知する。

### 03 施策

優先順位

3

- 地域ビジョンの改定に合わせて、誰もが居場所と役割を持って活躍できる地域を目指すことを盛り込み、住民を主体とした各小学校単位の地域ごとの活動を支援する。

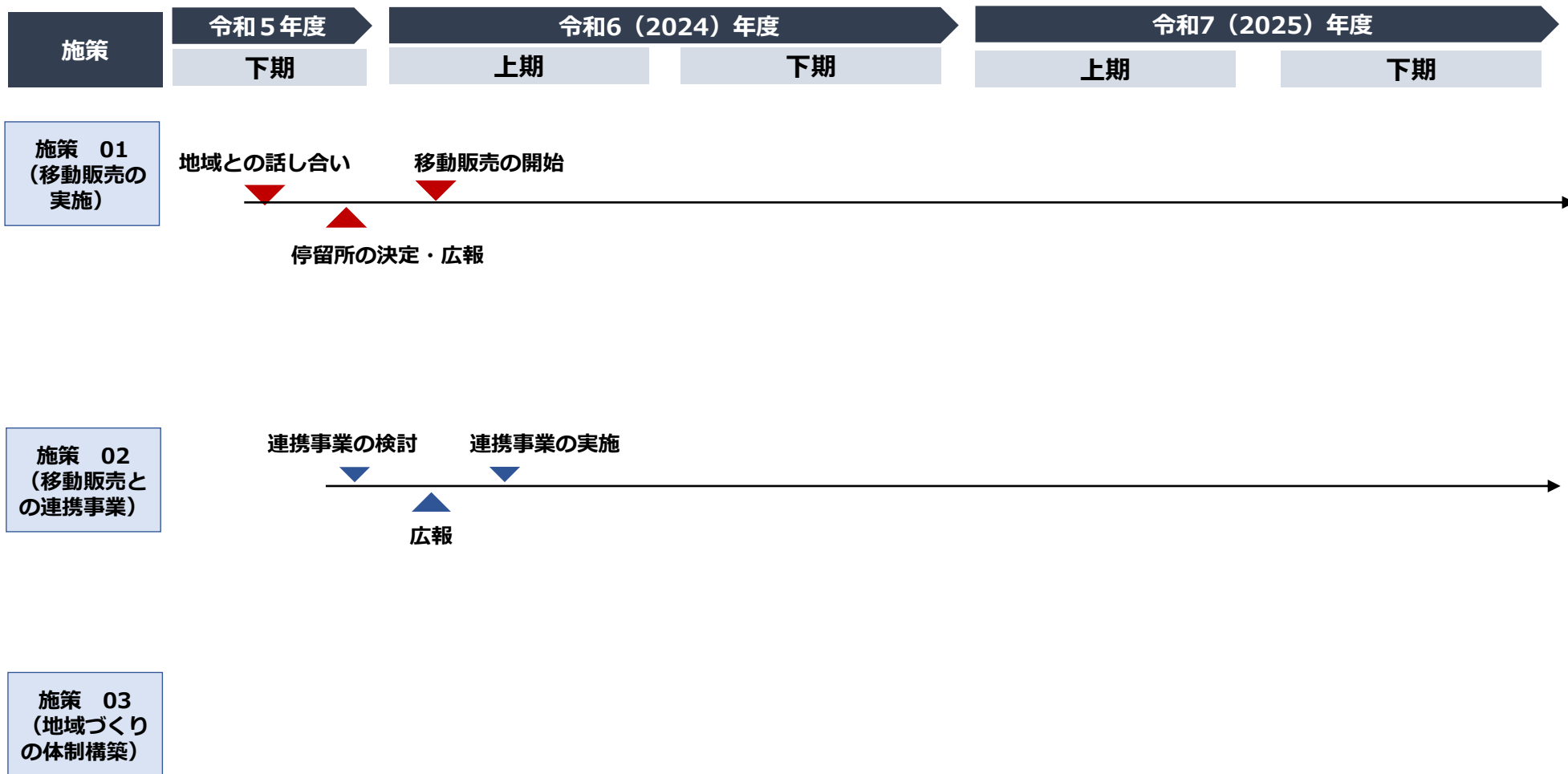
### 03 実現したい状態 (将来像)

- 小学校単位の地域ごとに、自らの地域についてビジョンや実施すべき活動などを検討できる

### 03 デジタル技術の種類など具体的な取組手段

- 地域づくりをコーディネートする人物を巻き込み、地域毎にデジタルの活用について検討する。

## 【今後の見通し（暫定）】



# 個別事業の具体化検討

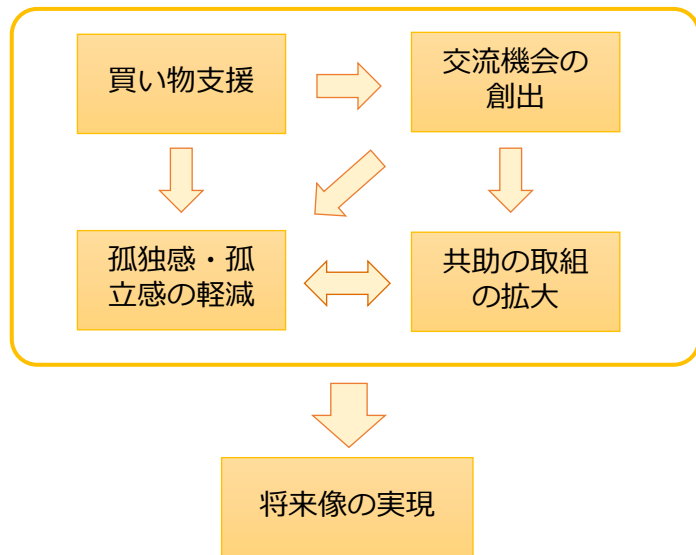
## 【事業の概要と目的】

<b>事業名</b>	移動販売を軸にした地域のつながりの強化	<b>対応する5分野</b>	交流・居場所
<b>事業概要</b>	ドラッグストアとの協定に基づく移動販売を実施し、買い物に困っている住民を支援するとともに、人との交流機会を増加させることで、孤独感・孤立感を軽減をさせる。移動販売車に設置されたモニターを通して、オンラインでの健康相談等を提供する。また、移動販売車が各地域の拠点等に停まるタイミングに合わせて、フレイル教室等のコミュニティ活性化事業を展開することで、交流を拡大し、共助を通じた地域活性化の基盤を築く。		
<b>事業実施により解決したい課題</b>	少子高齢化や核家族化の進展により、地域におけるつながりの希薄化が進んでいる。さらに、コロナ禍の影響で地域の交流機会が減少したことで、その動きは加速している。その結果、子育てや介護の負担増加や高齢者の孤立など様々な問題が発生している。		
<b>事業を実施することで実現したい状態</b>	地域住民間の交流を促進することで、孤独感・孤立感を解消する。また、地域住民の交流を拡大することにより地域コミュニティを強化し、見守りやごみ捨ての助け合い等、共助による取組につなげる。		

## 【生涯活躍のまちの全体像との関係性の確認】

### 生涯活躍のまちの全体像と事業目的・効果の関連性

第2次東御市総合計画 将来像  
 「人と自然が織りなすしあわせ交流都市 とうみ」  
 心あたたまるふれあい、いきいきとした活動によって人と人を結び、誰もが笑顔で暮らし続けられる幸せが実感できるまちを目指します。

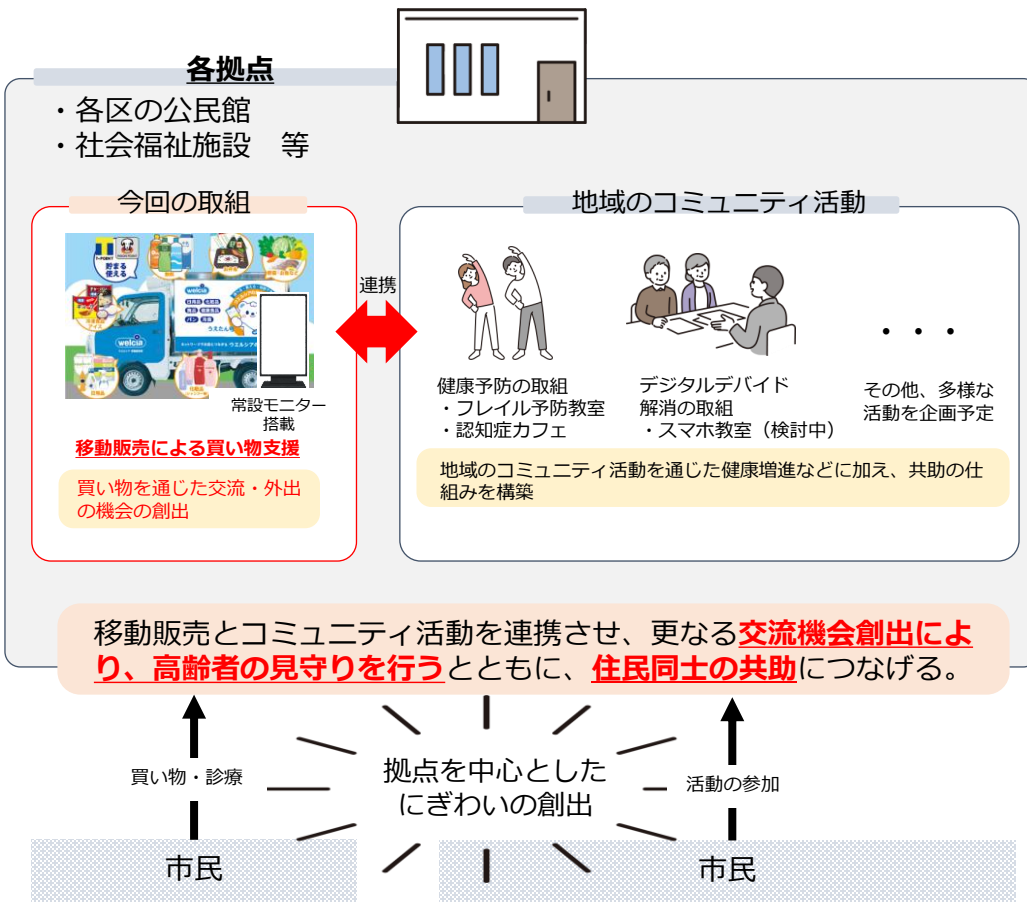


### 事業と連携できる可能性のある他事業と連携方法

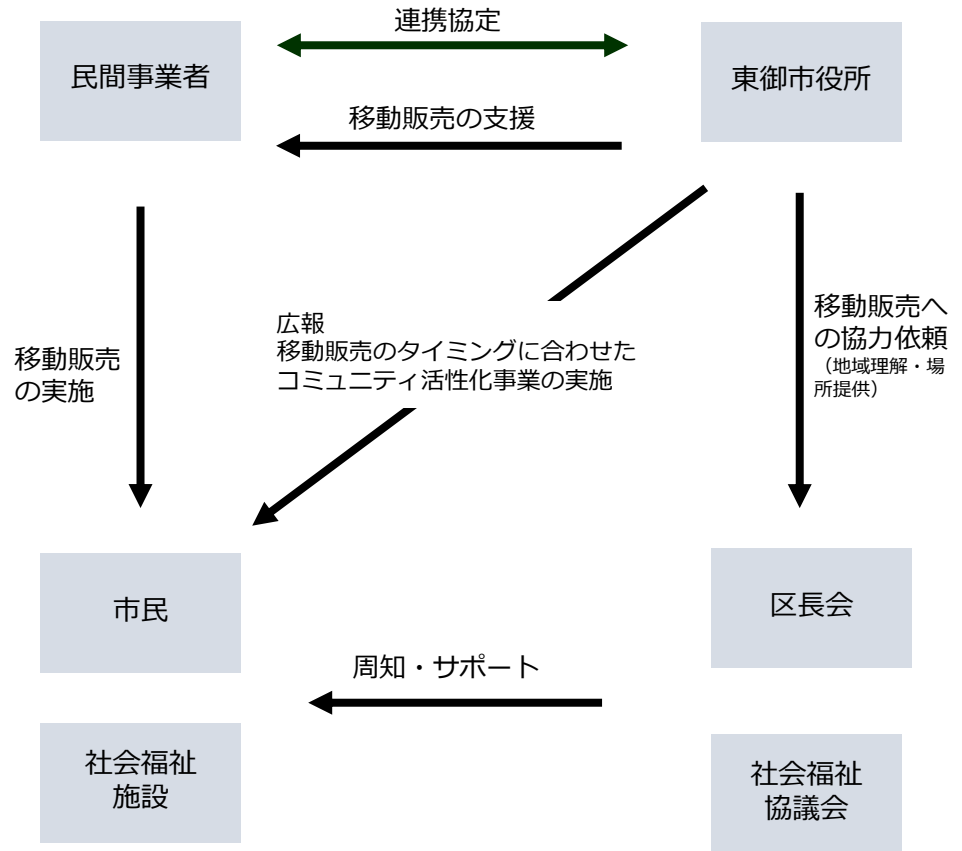
<b>交流・居場所</b>	地域拠点を機能強化し、地域の誰もが気軽に立ち寄ることができる場所にする。移動販売をきっかけに生まれた交流を継続的なものにする。	<b>活躍・しごと</b>	共助の取組を加速させるために、助けが必要な人と支援者とのマッチングを推進する
<b>人の流れ</b>		<b>健康</b>	移動販売に合わせてフレイル対策教室等を開催することで、多くの住民の参加を促すと同時に、交流の機会を創出する。
<b>住まい</b>		<b>その他</b>	

# 個別事業の具体化検討

## 【事業のイメージ図（暫定）】



## 【事業のスキーム図（暫定）】



- 民間事業者が東御市との連携協定に基づく移動販売を実施する。
- 市は移動販売の円滑な実施を支援するとともに、移動販売が地域に停まるタイミングに合わせてコミュニティ活性化事業を実施し、ゴミ出しや子育て支援など共助の取組を加速させる。

# 個別事業の具体化検討

## 【事業のイメージの具体化】

<b>事業の利用者</b>	買い物に困っている市民、交流機会を求める市民	<b>事業利用者にとっての参加メリット</b>	自ら買い物ができる 地域の人との交流による孤独感・孤立感の軽減
<b>利用者にアプローチする方法 (宣伝など)</b>	広報誌、LINE、区を通しての周知	<b>利用者増加のために連携した方がよい団体／機関</b>	区長会、社会福祉協議会
<b>事業を実施するフィールド</b>	各区の公民館や社会福祉施設		
<b>KPI</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動販売利用者数</li> <li>・移動販売に合わせて実施したイベント数</li> <li>・利用者満足度</li> </ul>		
<b>財源イメージ (ビジネスモデル)</b>	移動販売については、利用者から商品料金を徴収（店舗販売価格と同等） 移動販売に合わせた事業については、今後、デジタル田園都市国家構想交付金の活用も視野に検討		
<b>民間事業者の概要 (業種など)</b>	大手ドラッグストアチェーン。店舗内へのコミュニティスペースの設置や移動販売の実施など地域貢献活動を積極的に行っている。当市とも住民福祉の向上に関する連携協定を締結しており、地域の健康増進や地域コミュニティ形成等において連携協力をしている。		
<b>民間事業者に求める役割・必要な能力</b>	市民のニーズや地域の特性を理解し、どのような商品やサービスが求められているかを把握することが求められる。収集したニーズをもとに、商品やサービスを改善させるとともに、東御市が行うコミュニティ活動の検討材料とする。また、移動販売が地域に根付くまでには時間を要することが予想されるため、継続的な実施が必要である。		